

解答

(i) ④ (ii) ①

漢詩は、センター試験以来たびたび出題されており、センター最終年度・共通テスト初年度と立て続けに出されているので、必修項目だ。とりわけ、**押韻を踏まえて空欄に入る漢字を答える問題は、漢詩が出た場合100%出題される**ので、解法を確実にマスターしてほしい。

まずは基本を押さえよう。押韻とは、句末に同じ韻の字を用いる規則のことで、「韻を踏む」とも言う。韻は、漢字を音読みして、最初の母音以下の部分の発音で確認できる。例えば、次に挙げる漢字では、傍線部が韻にあたる。

(例) 余 yo 生 sei 天 ten 雪 setsu

次に、押韻する句は、五言絶句・五言律詩は偶数句で、七言絶句・七言律詩は偶数句に加えて第一句で韻を踏む。ただし、第一句は押韻されていないことも多いので、**基本的に偶数句で押韻する**と考えよう。

それでは問題に取りかかろう。本問の漢詩は七言絶句だから、第一句・第二句・第四句で押韻する。句末の漢字と(i)の選択肢の漢字を音読みすると、以下の通りだ。

第一句 遺 i 第二句 斯 shi
 ① 愉 yu ② 娯 go ③ 詐 sa ④ 欺 gi ⑤ 虚 kyo

漢詩は「い」で韻を踏んでいるから、同じ韻の④「欺^{gi}」が空欄に入ると推理できる。

空欄に入る漢字が決まれば、(ii)の解釈は難しくないだろう。「欺」は「あざむく・だます」の意であるから、①「ごまかす」、③「だます」のいずれかである。しかし、③は「他人をだます」とあるが、漢詩に「他人」は出てこない。傍線部の「自」は、副詞で「みづから」と訓み、自分で自分をだますことと考えれば、①の解釈は妥当である。よって、正解は①と判定できる。

漢字の音読みは、「遺跡」「愉快」のように、**熟語を作ると**思い浮かべやすい。また、第二句の「斯」の音読みが分からなかった人も多いだろうが、第一句の「遺」の音読みが分かれば判断できるのだから、落ち着いて対処したい。

選択肢チエツク

☆七言絶句なので偶数句十第一句で押韻

銅雀台址類無遺_i 何乃剩瓦多如_ク斯_ク
 文士例有_リ好_ム奇癖_一 心知_ル其_ノ妄_ニ姑_ニ自_ラ

問 傍線部Aについて、(i)空欄に入る語、(ii)その解釈として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。

- (i)
- ⑤ 虚 kyo ④ 欺 gi ③ 詐 sa ② 娛 go ① 愉 yu

☆意味よりも押韻を優先して決める

- (ii)
- ⑤ ともかく自分の趣味を楽しむのである。
 ④ 時とともに自然と執着心がなくなるのである。
 ③ やがて自分も他人をだますのである。 → 漢詩中に「他人」は出てこない
 ② そのうちに自然と愛着がわいてくるのである。
 ① とりあえず自分の心をごまかすのである。
 自「みづから」

書き下し文

銅雀台の址類れて遺す無し
 何ぞ乃ち剩瓦の多きこと斯くのごとくならん
 文士例奇を好むの癖有り
 心に其の妄なるを知るも姑く自ら欺く

現代語訳

銅雀台の跡は崩れて何も残っていない
 (それなのに) 建物の瓦を用いて作ったと称する硯が、なぜこんなにも出回っているものか
 文士はたいいてい珍奇なものを好む性癖がある
 内心では嘘だと分かっている、とりあえずは自分の心をごまかして硯を珍重するのである

解答

②

もう一問、押韻を踏まえて空欄に入る漢字を答える問題を練習しておこう。この漢詩は、四句（絶句）でも八句（律詩）でもなく二十四句あるが、十二句以上からなるものを排律という。一句は五字からなるので、この漢詩の形体は五言排律だ。

排律も、基本的に偶数句（七言の場合はプラス第一句）で押韻すると考えれば良い。句末の漢字を音読みしていくと、第二句「肥^い」、第六句「錐^{すい}」、第八句「資^し」、第十句「知^ち」…と、「い」で韻を踏んでいる（前講で述べたように、全ての漢字の音読みが分からなくても、たとえば「錐」の音読みが分からなかったとしても、その他の漢字で考えれば良い）。

選択肢の漢字も音読みすると、①「中^{ちゅう}」②「遺^い」③「敗^{はい}」④「至^し」⑤「失^{しつ}」であるから、「い」を韻とする②と④が候補として残る。ここからは句の解釈によって決めよう。空欄のある第四句は、②「遺」を入れると「一度も失敗することがない」、⑤「至」を入れると「一度も（獲物に）到達することがない」となる。鷹が百発百中で獲物を逃さないということと言いたいのであるから、②が正解と判定できる。

意味から考えると、⑤「失」も良いように思えるが、押韻していないので消去できる。ここまで、**意味の前に句法などが示す形（文構造）を見よ**ということをお口を酸っぱくして言ってきたが、漢詩の空欄問題においても、押韻という形を優先させてほしい。

選択肢チエック

↓偶数句は「い」で押韻

問 空欄 **A** に入る語として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

× ⑤ △ ④ × ③ ② ①
 失 至 敗 遺 中
shitsu shi hai i chu

残った②・④のうち、「一度も失敗することがない」と解釈できる②が適当

☆押韻↓解釈の順で考えること！

書き下し文

鷹を放つ 白居易

十月鷹籠を出で、草枯れて雉兔肥ゆ。
じふがつたかかご 十月鷹籠を出で、くさか 草枯れてちとこ 雉兔肥ゆ。
くわん 罽より下りて指顧に随ひ、百擲して一
あな 遺無し。

鷹の翅疾きこと風のごとく、鷹の爪利
たか 鷹の翅疾きこと風のごとく、たか 鷹の爪利
き きこと錐のごとし。

本鳥の設くる所と為り、今人の資する
もととり 本鳥の設くる所と為り、いまひと 今人の資する
ところ 所と為る。

孰か能く之をして然らしめん、術の甚
たれ 孰か能く之をして然らしめん、じゆつ 術の甚
だ だ知り易き有り。

其の向背の性を取り、制するは飢飽の
その 其の向背の性を取り、せい 制するは飢飽の
とき 時に在り。

長く飽かしむべからず、長く飢えしむ
なが 長く飽かしむべからず、なが 長く飢えしむ
べ べからず。

飢うれば則ち力足らず、飽けば則ち人
う 飢うれば則ち力足らず、あ 飽けば則ち人
ひと べからず。

に背きて飛ぶ。

飢ゑに乗じて搏撃するを縦し、未だ飽
う 飢ゑに乗じて搏撃するを縦し、いま 未だ飽
か かざるとき須く熟維すべし。

所以に爪翅の功あるも、人坐して之を
ゆ 所以に爪翅の功あるも、ひと 人坐して之を
と 収む。

聖明の英雄を馭する、其の術も亦斯く
せい 聖明の英雄を馭する、その 其の術も亦斯く
の のごとし。

鄙語棄つべからず、吾諸を獵師に聞け
ひ 鄙語棄つべからず、われ 吾諸を獵師に聞け
り り。

現代語訳

鷹を放つ 白居易

十月になると鷹は籠を出て、野の草が枯れ、獲物となる雉
や兔が肥え太る。

鷹は罽から下りて鷹匠の指示に従い、百回放たれて一回も
失敗することはない。

鷹の翼は風のように速く、鷹の爪は錐のように鋭い。

翼や爪はもともとは鷹のために付けられたものだが、今で
は人に利用されている。

誰が翼や爪を利用できるようにしているのか、とても簡単
に操る方法がある。

鷹の従順であったり反抗的であったりという性質を利用し
て、思い通りに鷹を操るには空腹時と満腹時の見きわめが肝
心である。

長時間満腹にさせておいてはいけないし、長時間空腹にさ
せておいてもいけない。

空腹になると力が出ないし、満腹になると人間の指示に背
いて飛んでいってしまう。

空腹時を利用して獲物に襲いかかることを許し、まだ満腹
にはなっていない頃合いを見計らってつなぎ止めなければな
らない。

そういうわけで鷹には爪や翼という道具があるが、人は
座ったままにしてそれを利用することができるのである。

聖人君子が英雄を意のままに操る、その方法もまた同じよ
うなものである。

卑俗な話だといって無視してはならない、私は鷹狩りの話
を獵師から聞いたのである。

重要語句

□ 為A所B 受身形で「AのBするところとなる」と訓む。「AにBされる」の意。